

【日野町図書館 おすすめの1冊コーナー】

# 読んでみたらんかな～

職員が勝手に  
ススメる1冊♪  
“今読みたい本”が  
見つかるかも!?

## 『シュタイナーのこどもの育てかた おとながこどもにできること』

ローター・シュタインマン 著  
鳥山雅代 訳 / 春秋社



私事ではありますが、昨年の9月に第一子（男の子）が生まれました。誰でも子育ては初めてのもので、正解なんてないというのが通論ではありますが、それでも先人の知恵を参考にしたいと図書館をうろうろしている時に目に留まったのが、表題の本です。

著者はシュタイナー教育を実践してきた教員であり、7人（！）の子供の父親でもあります。シュタイナー教育という聞きなれない単語で、身構える方もおられるかもしれませんが、内容としてはとてもわかりやすく、自身の子育て・教員経験をもとに数々の教訓を示してくれています。一部を紹介すると、「やっていいこととやってはいけないことの境界が親の感情でゆらゆら揺れてしまうということはできる限り避けたいことです。完璧にはできないし、できるとは思わないほうがいいけれど、このことをわかっておくことはとても大切だと思います。」

特に小学校低学年～中学校位までの子供に当てはまる示唆に富んでいます。近い年齢のお子さんをお持ちの親御さん、読んでみてはいかがでしょうか。



この本を紹介してくれたのは…

企画政策課 松原 尚久さん

担当業務：移住定住、公園管理、地域おこし協力隊、ふれあいまつりに関することなど

松原さんからひと言：

「役場に勤務して3年目になります。2年間、産業振興課で林業を担当していましたが、4月から企画政策課に異動しました。また、空き家対策についても担当していますので、空き家に関する相談ごとなどありましたら、じゃんじゃん聞いてやってくださいね」



職員紹介

“あてきな笑顔は今日も癒される”  
子育て奮闘中のイクメン職員



### 《図書館活用ガイド》

### あなたはもう使った？「マイ本棚」



自分が読みたいなと思った本、読み終わった本をメモ（記録）しておきたいことはありませんか？町図書館のホームページから自分の本棚のように、そういった本を整理することができます。

町図書館のホームページにアクセスし、「本を探す」（資料検索）ボタンをクリック→「利用者のページ」または「ログインボタン」から利用できます。なお、このサービスを利用するには、図書館の利用カードが必要となります。詳しくは、町図書館までお問い合わせください。

日野町図書館ホームページアドレス → <http://tosvo.town.hino.tottori.jp>

# 町史編さんだより

日野町史編さん室  
TEL 72-0341

## 第1回

## 『大倉山伝説がカギに?』～歴史小委員会が備後を調査～

町制60周年の平成31年に町史発刊を目指す活動がいよいよ本格化してきました。「町史編さんだより」の1回目は、歴史・民俗・文化小委員会の町外調査の一端をお伝えします。



▲ JR福塩線上下駅の駅前通りから望む翁山。山頂に城跡公園、登り口には長谷部氏ゆかりの善昌寺がある

### 備後にも長谷部一族

3月中旬に広島県府中市上下町を訪ねました。石州街道の宿場町だった上下は、江戸幕府の代官所や大森銀山の出張陣屋が置かれ、「上下銀」を扱う金融業者が最盛期には31軒も軒が連ねたとか。有名な上下ひな祭りの真つ最中で、往時をしのばせる豪壮な白壁の商家が立ち並ぶ商店街は観光客でにぎわっていました。

街の東方にそびえる翁山(538m)には城跡があり、ご存じ「平家物語」の勇者・長谷部信連の一族が周辺を支配しました。現地調査は資料収集、子孫や研究者とのネットワークづくりが目的です。流罪となった伯耆国日野

郡で再起した信連は江戸末期の地誌「西備名区」によれば、鎌倉の重臣・土肥実平と平家追討のため西進し、その戦功で上下付近の矢野荘を与えられます。平氏は文治元(1185)年春に壇ノ浦で滅亡。翌年に信連は安芸国の檢非違使(安芸西条)現在の東広島市に警備拠点があつたらしい)に任命され、有力な鎌倉御家人、能登国大屋庄の領主へと栄進します。

### 南朝と北朝に分かれて

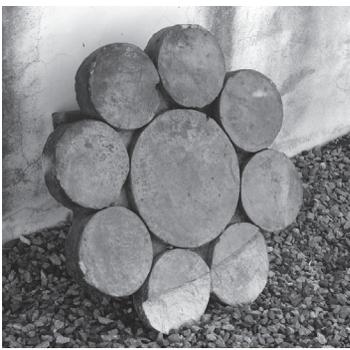
しかし、備後・安芸における長谷部一族は南北朝争乱で北朝に属し、信連の血族とみられる日野の金持党、金持景藤らは船上山合戦で後醍醐天皇に味方し南朝に肩入れしており、ちぐはぐで複雑な動きがあつたようです。長谷部信仲が建武3(1336)年に南朝方だった世羅郡の重永城を攻め、一族は有福城の竹内氏も攻略して暦応3(1340)年には上下の地頭となりました。

また、室町期には守護の山名氏に従い、やがて勢力を広げた尼子氏の属将に。

次いで戦国期、信連から11代の元秀は毛利元就の傘下に入り、上下に翁山城を築きます。これらは武門として生き残る方法だったのでしよう。

### 妙見信仰とたたら製鉄

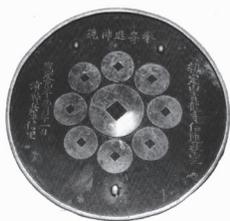
今回の上下町訪問は、元秀の息子元信をめぐる日南町・大倉山の伝説がきっかけでした。昔、岩見村の牛鬼山(のちの大蔵山)を通りかかった大蔵左衛門元信を鬼が呼び止め、「お前の先祖の信連があちこちに宮を建てたので俺は食えなくなつてしまった」と捨てぜりふを残して立ち去るといふ内容です。ただの地名説話と言つてしまえばそれ



▶善昌寺境内で発見した「九曜紋」の軒飾りのようなもの。伽藍修復時の遺物らしい。根雨の延暦寺にあるものと同じで親近感がわく

までですが、たたら製鉄にからむ牛鬼・孝霊天皇・スサノオ(備後では吉備津彦をイメージ)の3点セットに信連を強く結び付けるこぼれ話となると、簡単に見過ごせないものがあります。

長谷部氏の本来の家紋は北極星と北斗七星を描く「九曜紋」で妙見信仰、たたら製鉄に深くかわつていきます(金持神社も元は三体妙見)。似て非なる「銭九曜紋」を戴く穴水・長氏の家譜など通説に反して、日野の長谷部家系図が関東武士の三浦氏・千葉氏の流れであると記す謎に、大倉山伝説と備後の資料は新たなカギを与えてくれるかもしれませぬ。



▲穴水・長氏の銭九曜紋。妙見信仰からは隔たりを感じる

地域の言い伝えなどで同様に何か皆さんに思い当たるものがあれば、ご教示いただけると喜びます。(頼田直真)歴史・民俗・文化小委員長